

# 北海道スタディ参加者の皆様へ

北海道大学では機関長の許可を得て、下記の研究を実施しております。本研究の対象者に該当する可能性のある方で、既に提供された情報（生体試料含む）を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。データの利用・提供を拒否することによる不利益はありません。また、データ利用・提供を拒否したとしても「環境と子どもの健康に関する北海道スタディ」への参加を取りやめることとはなりません。

第1版

作成日 2023年5月13日

研究課題名 (研究番号)	学童期の子どものピレスロイド等の農薬への曝露と発達障がいとの関連
北海道大学の研究 責任者 (所属)	北海道大学 環境健康科学研究教育センター 西原進吉
他の研究機関およ び各機関の研究代 表者	北海道大学 大学院保健科学研究院 池田敦子 独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所 小林澄貴
本研究の目的	日常的な農薬への曝露が、子どもの発達障がいの傾向と関係するか否かを調べます。
研究実施期間	研究機関の長の許可日から 2026年3月31日まで
調査データ（該当 期間）	2002年4月から2018年3月まで
研究の方法 (利用する資料・ 情報等)	<b>【対象となる参加者様】</b> 北海道スタディ大規模コホートの参加者のお子さまのうち、2003年から2009年に生まれ、2017年11月までに8歳に到達し、出生時に臍帯血および7歳の段階で尿検体を提出された方。 <b>【利用する試料・情報】</b> 7歳時に収集した尿検体を用いて、農薬を測定します。また、臍帯血を用いて農薬の代謝に関係する遺伝子多型情報を把握し(SNPs)、身体に入った農薬の代謝能力の個人差を考慮に入れながら、農薬への曝露と子どもの発達障がい傾向との関係を明らかにします。発達障がい傾向の把握には、8歳時までに提出されている日ごろの生活の様子に関する質問紙の情報を用います。
試料/情報の他の 研究機関への提供 および提供方法	当研究のコホートデータは、対象となる参加者様の情報に対して個人が特定されない匿名情報処理を行い利用します。共同研究機関とのやり取りに際しても、個人の特定につながらない状態に加工した情報を用います。最終的に集積したデータの保管や運用にはパスワード機能を用いた外部記録デバイス(USBなど)を用いて北海道大学・共同研究機関での移動を行います。最終的なデータは北海道大学にて解析予定です。
試料・情報の二次	測定した農薬のデータは、二次利用の可能性があり、その際には各機関のホーム

利用	ページ等で告知を行います。
個人情報の取り扱い	この研究において対象者の情報を扱う際は、個人情報とは関係のない符号または番号を付して匿名化致します。論文作成時、学会発表時には個人が特定できる情報は一切用いません。また、同意の範囲外において情報の利用を行うことはありません。対応表は北海道大学環境健康科学研究教育センターが責任を持って保管し、共同研究機関の間では対応表の授受を行いません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究は、文部科学省の科学研究費（課題番号：23K09642）で実施されるものであり、申告すべき利益相反はございません。
お問い合わせ先	電話：011-706-4746 担当者：北海道大学 環境健康科学研究教育センター 西原進吉
備考	